

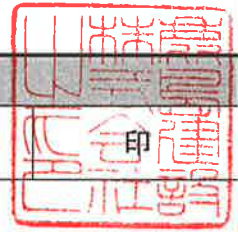
環境省・オフセット・クレジット(J-VER)認証運営委員会 御中
(事務局:気候変動対策認証センター)

平成 23 年 / 月 6 日

温室効果ガス排出削減・吸収量認証依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における検証が終了しましたので、利用約款記載のダブルカウントを回避するための措置を適切に執り行うことを誓約のうえ、下記の温室効果ガス排出削減・吸収量の認証を依頼いたします。

プロジェクト名			
鹿島社有林整備吸収源プロジェクトその1(宮崎)			
【依頼者】プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	鹿島建設株式会社(カジマケンセツカブシキガイシャ)		
住所	東京都港区元赤坂1丁目3番1号		
代表者氏名	中村満義	代表者役職	代表取締役社長
担当者氏名	三浦一彦	担当者 所属部署・役職	環境本部・次長
担当者 E-mail	miurakaz@kajima.com	担当者電話番号	03-5544-0743
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	鹿島建設株式会社(カジマケンセツカブシキガイシャ)		
プロジェクト参加者名	かたばみ興業株式会社(カタバミコウギョウカブシキガイシャ) 日高勝三郎商店(ヒダカカツサブロウショウテン)		
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	鹿島建設株式会社(カジマケンセツカブシキガイシャ)		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		
妥当性確認・検証機関			
妥当性確認機関名	気候変動対策認証センター		
検証機関名	SGS ジャパン株式会社		



プロジェクト情報	
プロジェクト登録番号 (4 ケタ)	0023
プロジェクト登録日	平成 22 年 3 月 29 日
プロジェクト概要 ¹	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】 鹿島建設が宮崎県延岡市北川町に所有する社有林のうち、スギ・ヒノキの植林地に対し、適切な間伐を行い CO2 吸収に貢献する。</p> <p>【適格性基準との整合性】 条件 1: 対象地は森林法 5 条に定める森林である 条件 2: プロジェクト実施地において行われる施業が以下の 2 つの条件を満たす間伐である。①クレジット発行対象期間内に当該プロジェクト実施地の森林施業計画や森林認証の森林計画書において転用及び主伐が計画されていない。②2007 年 4 月 1 日以降に森林施業計画等に基づき施業(間伐)されたものである。 条件 3: プロジェクト実施地は、森林施業計画の認定を受けた森林である(2009 年 9 月に認定受領)。</p> <p>【法令遵守状況】 森林・林業基本法、及び森林法に該当。</p> <p>【採用技術】 一般的なチェンソーによる間伐。</p> <p>【モニタリング方法】 ・面積(コンパス測量による実測) ・地位級(プロット調査) ・その他係数(「京都議定書 3 条 3 及び 4 の下での LULUCF 活動の補足情報に関する報告書」より)</p> <p>【GHG 算定式の方法論への準拠性】 方法論に完全に準拠している。</p> <p>【モニタリング体制】 吸収量算定責任者(鹿島建設) 吸収量算定・モニタリング報告書作成者(鹿島建設) 測定データ確認者(かたばみ興業) データ測定者(日高勝三郎商店)</p> <p>【QA / QC 体制】 教育訓練、情報管理、データの確認、内部監査、測定機器の維持管理を適切に実施。</p> <p>(その他特筆すべき事項)</p>

¹ プロジェクト概要はプロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA / QC 体制等に関することを3ページ以内で具体的に記述してください。登録時から変更がなければ登録時と同内容を、登録時から変更がある場合は相違点を具体的に記述してください。

モニタリング結果概要 ²	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト計画に基づきプロジェクトを実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング計画書に基づきモニタリングを実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング方法ガイドライン・方法論に準拠した GHG 算定を行った。 (その他特筆すべき事項)						
適用モニタリング方法 ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (森林管理プロジェクト用) ver.1.5(登録時)						
適用方法論	方法論番号	JRAM001 ver. 2(登録時)					
	方法論名称	森林経営活動による CO2 吸収量のぞう隊(間伐促進型 ³ プロジェクト)関 する方法論					
モニタリング結果							
モニタリング期間	2009年 4月 1日～ 2010年 12月 31日						
モニタリング対象面積	<方法論R001・R003のみ> 10.23 ha						
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂ ⁴	-	119	89	-	-	208
認証依頼削減・吸収量	208 t-CO₂						

² モニタリング概要は、モニタリング方法において特筆すべき事項があれば記入してください。

³

⁴ 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。

ダブルカウントの防止の措置			
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	鹿島建設株式会社		
ダブルカウントの防止措置内容	J-VER 実施規則 1.4 に基づき次の措置を行う。①バウンダリが同一である類似制度に申請しない、②第三者に移転する際の環境価値の所属の明確化、③クレジット売却後に環境価値を主張しない。		
公的な報告・公表制度（判明している公的制度）	会社としては地球温暖化対策推進法に基づく算定・報告・公表制度の対象事業者であるが、当該プロジェクトによる吸収分は同制度の報告対象としていない。		
自主的な報告・公表対象（対象となるホームページ、環境報告書等）	<p>CSR 報告書やホームページ等に記載する場合は以下の措置をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの紹介に加えて削減量について記載する場合は、J-VER の発行量や売却量について十分な情報を記載する。 ・クレジット売却後には、当該クレジットに付属する CO2 に係る環境価値の保有を前提とした主張は行わない。 		
ダブルカウント防止措置責任者（プロジェクト代表事業者と同様の場合は記載不要）			
事業者名	（プロジェクト代表事業者と同様）		印
住所			
代表者氏名		代表者役職	
担当者氏名		担当者 所属部署・役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
備考欄			

以 上